

PHILIPS

Screeneo U4

Ultra Short Throw Projector

取扱説明書



以下URLから、製品を登録してサポートをお受けください

www.philips.com/support

目次

はじめに.....	3	5 外部スピーカーまたはヘッドフォンに接続する.....	11
購入者の皆さまへ.....	3	ケーブル接続.....	11
本取扱説明書について.....	3	Bluetooth 接続.....	12
同梱品.....	3	6 メディアの再生.....	13
カスタマーサービスセンター.....	3	USB ストレージデバイスからビデオを再生する.....	13
1 一般的な安全情報.....	4	7 プロジェクターを Bluetooth スピーカーとして使用する.....	14
本製品のセットアップ.....	4	8 設定を変更する.....	15
修理.....	4	9 メンテナンス.....	17
電源.....	5	清掃.....	17
2 概要.....	5	ソフトウェアのアップデート.....	17
背面図.....	5	10 トラブルシューティング.....	19
側面図.....	5	11 付録.....	21
上面図.....	6	技術データ.....	21
リモコン.....	6	CE 宣言文.....	22
3 初期設定.....	7	連邦通信委員会規則宣言.....	22
プロジェクターの設置.....	7	カナダ法規制の順守.....	22
電源の接続.....	7	その他の通知.....	23
リモコンの準備.....	8		
プロジェクターの電源を入れてセットアップする.....	8		
4 再生デバイスに接続する.....	10		
HDMI™ 経由でデバイスに接続する.....	10		
HDMI™ ARC 経由でデバイスに接続する.....	10		
ドングルに接続する.....	11		

はじめに

購入者の皆さまへ

本プロジェクターをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品とその機能を存分にお楽しみください。

本取扱説明書について

付属のクイックスタートガイドにより、本製品を直ちにかつ簡単に使い始めることができます。詳しい説明は、本取扱説明書の次のセクションに記載されています。

本取扱説明書をよくお読みください。本製品を適切に操作するために、すべての安全指示に従ってください（一般的な安全情報、4 ページを参照）。これらの指示に従わなかった場合、弊社では一切責任を負いません。

本書で使用される記号

注意



この記号は、本製品をより有効にかつ簡単に使用するためのヒントを示しています。

危険！



怪我の危険！

この記号は、怪我の危険を警告しています。不適切な取扱により、怪我を負ったり本製品が破損する可能性があります。

注意！

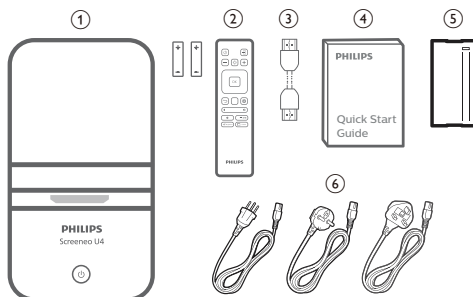


製品の破損とデータの損失に注意！

この記号は、製品が破損したりデータが損失したりする危険性を警告しています。不適切な取扱により、製品が破損する可能性があります。

同梱品

- ① Screeneo U4 プロジェクター (SCN350/INT)
- ② リモコン (単 4 電池 2 本付き)
- ③ HDMI™ - HDMI™ ケーブル
- ④ クイックスタートガイドと保証書
- ⑤ 電源アダプター
- ⑥ プラグ付き電源ケーブル x 3 本



カスタマーサービスセンター

以下のサイトに、サポートページ、保証書、取扱説明書が掲載されています。

ウェブサイト: www.philips.com/support

サポートセンター連絡先:

国外からの電話番号: +41 215 391 665

国際電話の料金については販売店にお問い合わせください。

メール: philips.projector.eu@screeneo.com

よくある質問:

<https://support.philipsprojection.com>

<https://community.philipsprojection.com>

1 一般的な安全情報

表示されているすべての警告と安全上の注意事項に注意を払ってください。本書に記載されていない変更や設定は行わないでください。誤った操作や不適切な取扱は、怪我、製品の破損、データの損失につながる可能性があります。

本製品のセットアップ

本製品は屋内専用です。安定かつ水平な平面にしっかりと置いてください。怪我や製品本体の破損を避けるために、人がつまづかないようにケーブルを配置してください。

湿気の多い部屋で製品を操作しないでください。濡れた手で電源ケーブルや電源接続部に触れないでください。

寒い場所から暑い場所に移動した直後には使用しないでください。急激な温度変化にさらされると、重要な内部部品に水分が凝縮することがあります。

製品は十分な換気が必要です。覆わないでください。使用中は、閉じたキャビネットや箱などの筐体に製品を入れないでください。

直射日光、熱、激しい温度変化、湿気から本製品を保護してください。ヒーターやエアコンの近くに本製品を置かないでください。技術データに記載されている温度に関する仕様を順守してください（**技術データ、21 ページを参照**）。

長時間使用すると、製品表面が熱くなります。過熱した場合、自動的にスタンバイモードに切り替わります。

製品内部に液体が入らないようにしてください。内部に液体や異物が入った場合は、製品の電源を切り、主電源から切り離してください。認定サービスセンターで製品の検査を受けてください。

製品の取扱には常に注意してください。手でレンズに触れないでください。本製品や電源ケーブルの上に重いものや鋭利なものを置かないでください。

製品が熱くなったり、発煙した場合は、直ちに電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。認定サービスセンターで製品の検査を受けてください。製品を直火（ろうそくなど）に近づけないでください。

電池（電池パックまたは内蔵電池）を直射日光や直火などの高温にさらさないでください。

次のような状況下では、製品の内部に水滴が凝結し、故障の原因となることがあります。

- ・ 寒い場所から暖かい場所に製品を移動した場合。
- ・ 寒い部屋を暖めた場合。
- ・ 湿気の多い部屋に製品を置いた場合。

湿気が内部に発生しないように、次の手順に従ってください。

- 1 部屋の環境になじませるために、別の部屋に移動する前に製品をビニール袋で密封してください。
- 2 1～2 時間待ってから、ビニール袋から製品を取り出してください。

ほこりの多い環境下で製品を使用しないでください。ほこりの粒子などの異物で本製品が破損する可能性があります。

本製品を極端に振動させないでください。これにより、内部の部品が破損する可能性があります。

監督者のいない場所でお子様が本製品を取り扱わないようにしてください。梱包材はお子様の手の届かないところに保管してください。

安全のため、落雷を伴う雷雨の際には製品を使用しないでください。

修理

ご自身で製品を修理しないでください。不適切なメンテナンスを行うと、怪我をしたり製品が破損したりする可能性があります。修理は認定サービスセンターで行ってください。

認定サービスセンターの詳細は、本製品に付属の保証書に記載されています。

保証が無効にならないように、本製品からタイプラベルをはがさないでください。

危険!



不適切な電池を使用すると、爆発の恐れがあります!

不適切な電池を使用すると、爆発の恐れがあります。


電源

本製品用に認定された電源アダプターのみを使用してください (**技術データ**、**21 ページ**を参照)。電源の定格電圧が、設置場所で利用可能なコンセントの電圧と一致することを確認してください。本製品は、製品上に指定された電圧タイプに準拠しています。

製品をコンセントの近くに設置し、簡単に抜き差しできるようにしてください。

注意!



プロジェクターの電源を切る際は、必ず  ボタンを使用してください。

表面を清掃する前に、製品の電源を切り、コンセントからプラグを抜いてください (**清掃**、**17 ページ**を参照)。糸くずの出ない柔らかい布を使用してください。液体や気体または引火しやすいクリーナー (スプレー、研磨剤、つや出し剤、アルコール) は絶対に使用しないでください。製品の内部に湿気が入らないようにしてください。

危険!

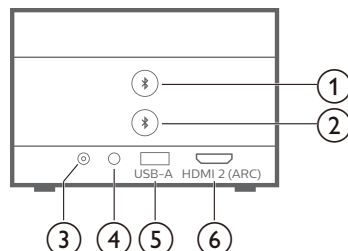





目の炎症の危険あり!

本製品は、非常に明るい光を放出するハイパワー LED (発光ダイオード) を搭載しています。操作中はプロジェクターのレンズを直視しないでください。これにより、目の炎症や怪我を引き起こす可能性があります。

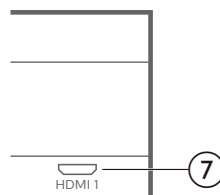
2 概要

背面図



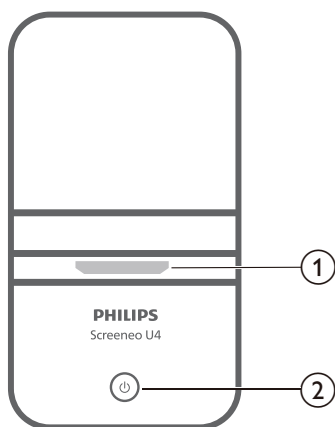
- ①  最初の Bluetooth スピーカー / ヘッドフォンとペアリングします。
- ②  2 台目の Bluetooth スピーカー / ヘッドフォンとペアリングします。
- ③ **DC**
電源アダプターに接続します。
- ④  3.5mm オーディオ出力。外部スピーカーまたはヘッドフォンに接続します。
- ⑤ **USB-A**
USB ストレージデバイス / ドングルに接続します。
- ⑥ **HDMI 2 (ARC)**
再生デバイスの HDMI™ 出力ポートまたは互換性のあるオーディオシステムの HDMI™ ARC ポートに接続します。

側面図



- ⑦ **HDMI 1**
再生デバイスの HDMI™ 出力ポートに接続します。

上面図

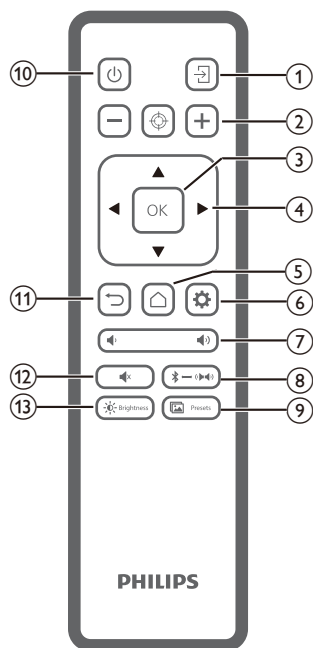


① 投影レンズ

② 電源

- ・ プロジェクターをオンまたはスタンバイモードに切り替えます。
- ・ プロジェクターの電源が入っているときは、LED が白で点灯します。
- ・ プロジェクターがスタンバイモードのときは、LED が赤で点灯します。
- ・ プロジェクターが Bluetooth スピーカーモードの場合、LED は青で点灯します。

リモコン



① 入力源

別の入力ソースに切り替えます。

② 自動/手動フォーカス調整

自動または手動でフォーカスを調整します。

③ OK

画面で選択を確認します。

④ ナビゲーションボタン (上、下、左、右)

- ・ 画面上の項目を選択します。
- ・ ◀/▶を押して、現在の設定値を変更します。

⑤ ホーム

ホーム画面に移動します。

⑥ 設定

プロジェクターの設定メニューに移動します。

⑦ 音量調整

音量を調整します。

⑧ Bluetooth/内蔵スピーカー




Bluetooth と内蔵スピーカーを切り替えます。

⑨ Presets

画像プリセットを切り替えます。

⑩ 電源

プロジェクターをオンまたはスタンバイに切り替えます。

- ⑪  前の画面に戻るか、現在の画面を終了します。
- ⑫  スピーカーをミュートします。
- ⑬  Brightness
輝度モードを切り替えます。

3 初期設定

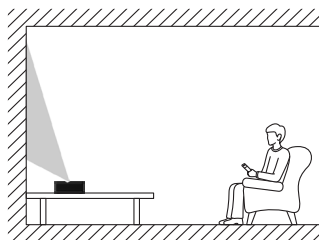
注意




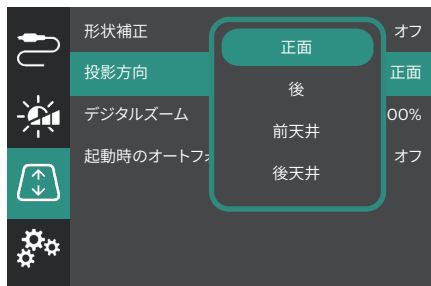
接続を確立したり変更する前に、すべてのデバイスが電源から切り離してあることを確認してください。

プロジェクターの設置

- 1 投影面前のテーブルなどの平面に、プロジェクターを置きます。一般的に、このようにプロジェクターを配置することで、すみやかに設定でき、利便性も確保できるようになります。




- 2 投影方向が正しくない場合は、リモコンの  を押してプロジェクターの設定メニューに移動し、投影方向 - 正面を選択します。



電源の接続

注意!

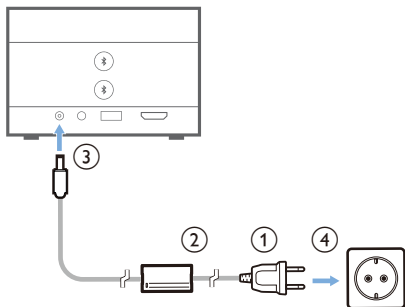


プロジェクターのオンとオフを切り替える際は、必ず  ボタンを使用してください。

- 1 正しいプラグ (EU/UK/US) が付いた付属の電源ケーブルを選択します。
- 2 電源ケーブルを電源アダプターに接続します。
- 3 電源アダプターをプロジェクターの DC ジャックに接続します。

4 電源ケーブルをコンセントに接続します。

- ・ プロジェクターの電源表示 LED が赤で点灯します。



リモコンの準備

注意!



電池の使用を誤ると、過熱、爆発、火災、怪我が発生する恐れがあります。電池が液漏れするとリモコンが破損する恐れがあります。

リモコンを直射日光にさらさないでください。

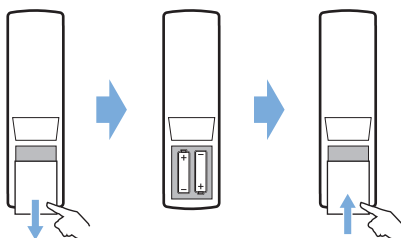
電池を変形、分解、充電しないでください。

直火や水にさらさないでください。

放電した電池は直ちに交換してください。

長期間使用しない場合、リモコンから電池を取り外してください。




- 1 電池ケースを開きます。
- 2 付属の電池（単 4 電池）を、表示に従って正しい極性 (+/-) に挿入します。
- 3 電池ケースを閉じます。



- ・ 赤外線信号のリモコンを使用する場合は、リモコンをプロジェクターの赤外線センサーに向け、リモコンと赤外線センサーの間に障害物がないことを確認してください。

プロジェクターの電源を入れてセットアップする

プロジェクターの電源をオン / オフする

- ・ プロジェクターの電源を入れるには、プロジェクターの  を 2 秒間長押しするか、リモコンで  を押してください。プロジェクターの電源表示 LED が赤から白に変化します。
- ・ プロジェクターの電源を切るには、プロジェクター / リモコンの  を 2 秒間長押しするか、このボタンを 2 回押します。プロジェクターがスタンバイモードになり、電源表示 LED が白から赤に変化します。
- ・ プロジェクターの電源を完全に切るには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

プロジェクターシステムのセットアップ

初めてプロジェクターの電源を入れたとき、または工場出荷時のデフォルト設定にリセットした後に、プロジェクターシステムが起動し、基本設定を行ってセットアップするように求められます。

セットアップが終了すると、プロジェクターの使用を開始したり、引き続き他の調整を行うことができます。

ステップ 1: 表示言語の選択

リモコンの下または上のナビゲーションボタンを押して希望の表示言語を選択し、OK ボタンを押して確定します。

注意: デフォルトの表示言語は **English** ですが、すべての言語が利用できるわけではありません。

ステップ 2: プロジェクターの位置を調整する

プロジェクターの位置を調整して、最適なスクリーンの形状とサイズにします。

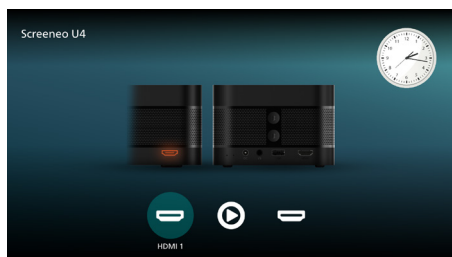
完了したら、OK ボタンを押します。

ステップ 3: 日時を設定する

リモコンで下または上のナビゲーションボタンを押して、日付と時刻の値を設定します。右または左のナビゲーションボタンを押して、次または前の値に移動します。

完了したら、右のナビゲーションボタンを押して **次へ** を選択し、OK ボタンを押します。

セットアップが完了すると、以下に示すホーム画面が表示されます。



画面サイズの調整

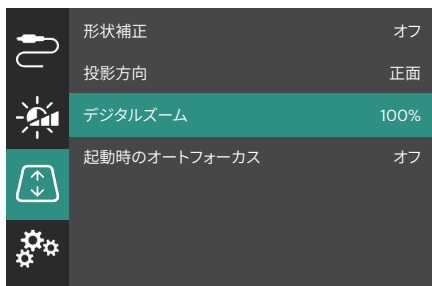
投影画面の大きさ(映像の大きさ)は、プロジェクターのレンズから投影面までの距離で決定されます。

このプロジェクターの投影距離は 4 cm ~ 30.5 cm で、32 インチから 80 インチのスクリーンサイズが形成されます。

デジタルズーム

デジタルズーム機能を使用して、画面サイズを最大 50% 縮小できます。

- 1 リモコンで を押して設定メニューに移動し、デジタルズームに移動して **OK** ボタンを押します。
- 2 / を押して画面サイズを調整します。直ちに変更が有効になります。



画像フォーカスの調整

プロジェクターに画像のフォーカスを自動的に調整させたり、手動で調整することができます。

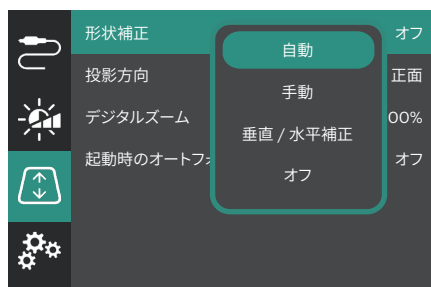
- ・ 画像のフォーカスを自動的に調整するには、リモコンで を押します。
- ・ 画像のフォーカスを手動で調整するには、リモコンで または を押します。

画像形状の調整

プロジェクターに画像の形状 (キーストーン) を自動的に調整させたり、手動で調整することができます。

画像形状を自動的に調整するには：

- 1 リモコンで を押して設定メニューにアクセスし、形状補正に移動して **OK** ボタンを押します。
- 2 オプションのリストから自動を選択します。



画像形状を手動で調整するには：

- 1 リモコンで を押して設定メニューにアクセスし、形状補正に移動して **OK** ボタンを押します。
- 2 オプションのリストから手動または垂直 / 水平補正を選択します。
- 3 画面の指示に従って、画像形状を調整します。

4 再生デバイスに接続する

注意

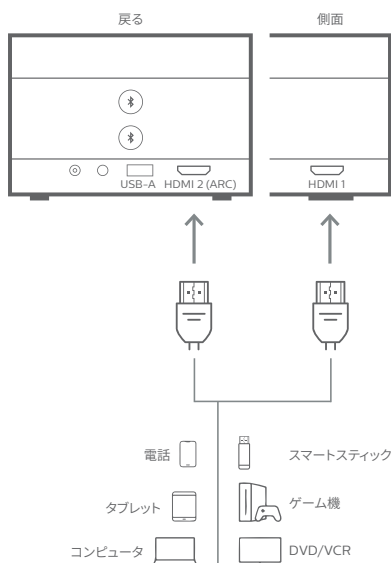


接続を確立したり変更する前に、すべてのデバイスが電源から切り離してあることを確認してください。

HDMI™ 経由でデバイスに接続する

HDMI™ 接続経由で、プロジェクターに、再生デバイス（ブルーレイプレーヤー、ゲーム機、ビデオレコーダー、デジタルカメラ、パソコンなど）を接続できます。この接続により、画像は投影スクリーンに表示され、音声はプロジェクターで再生されます。

- 1 HDMI™ ケーブルを使用して、プロジェクターの **HDMI 1** または **HDMI 2 (ARC)** ポートを、再生デバイスの HDMI™ 出力ポートに接続します。



- 2 プロジェクターで自動的に正しい入力ソースに切り替わらない場合は、リモコンで を押して、入力ソースを HDMI 1 または HDMI 2 に切り替えます。

HDMI™ ARC 経由でデバイスに接続する

プロジェクターの **HDMI 2 (ARC)** ポートは、オーディオリターンチャンネル (ARC) に対応します。HDMI™ ARC 接続経由で、プロジェクターに、互換性のあるオーディオシステム（ホームシネマシステム、AV レシーバー、サウンドバーなど）を接続できます。この接続により、接続されたオーディオシステムにオーディオがストリーミングされます。

ヒント: 5.1 サラウンドサウンドを再生するには、通常、プロジェクターを、5.1 ホームシネマシステムに接続する必要があります。

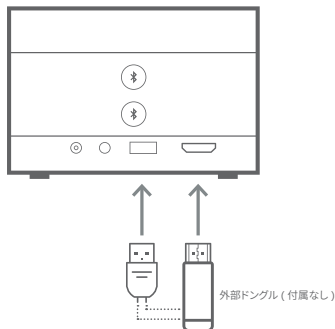
- 1 HDMI™ ケーブルを使用して、プロジェクターの **HDMI 2 (ARC)** ポートを、再生デバイスの HDMI™ 出力ポートに接続します。
 - ・ オーディオシステムによっては、HDMI™ ARC ポートのラベルが異なる場合があります。詳細については、機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- 2 プロジェクターで自動的に正しい入力ソースに切り替わらない場合は、リモコンで を押して、入力ソースを HDMI 2 に切り替えます。
- 3 プロジェクターで HDMI™ ARC 機能を起動するには、リモコンで を押して設定メニューに移動し、音声出力に移動して **OK** ボタンを押し、オプションのリストから ARC を選択します。




ドングルに接続する

プロジェクターに、ドングル (Amazon Fire Stick、Roku Stick、Chromecast など) を接続すると、インターネット経由で簡単にビデオを見ることができます。この接続により、画像は投影スクリーンに表示され、音声はプロジェクターで再生されます。

- 1 HDMI™ ケーブルを使用して、ドングルを、プロジェクターの **HDMI 2 (ARC)** ポートに接続します。
- 2 USB ケーブルを使用して、ドングルを、プロジェクターの **USB-A** ポートに接続します。



- 3 プロジェクターで自動的に正しい入力ソースに切り替わらない場合は、リモコンで  を押して、入力ソースを HDMI 2 に切り替えます。

5 外部スピーカーまたはヘッドフォンに接続する

プロジェクターに外部スピーカーまたはヘッドフォンが接続できます。この接続を行うと、プロジェクターからの音声は、外部スピーカーまたはヘッドフォンから再生されます。

- ・ プロジェクターに外部スピーカーまたはヘッドフォンが接続される場合、プロジェクターの内部スピーカーが自動的に解除されます。

危険！





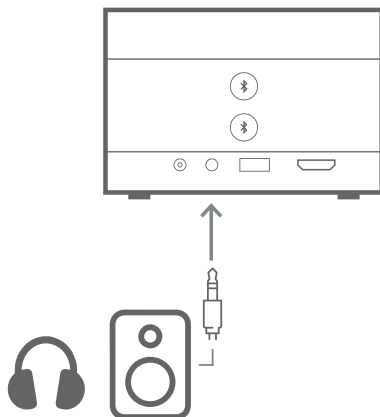
聴覚障害の危険！



ヘッドフォンを接続する前に、プロジェクターの音量を下げてください。

特にヘッドフォンを使用している場合は、プロジェクターを大音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因となる恐れがあります。

ケーブル接続

- 1 3.5 mm オーディオケーブルを使用して、プロジェクターの  ジャックを、外部スピーカーのアナログオーディオ入力 (3.5 mm ジャック、または赤と白のジャック) に接続します。もしくは、プロジェクターの  ジャックをヘッドフォンに接続します。




- 2 スピーカーまたはヘッドフォンを接続したら、リモコンで  /  を押して、お好みの音量に調整してください。

Bluetooth 接続

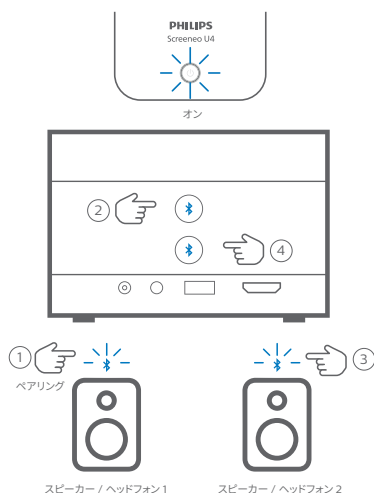
プロジェクターには Dual Bluetooth 5.0 テクノロジーが搭載されており、2 台までのスピーカーまたはヘッドフォンに接続できます。接続されている各デバイスの音量を個別に制御できます。


プロジェクターを Bluetooth スピーカーまたはヘッドフォンで初めて使用する前に、それらとプロジェクターをペアリングする必要があります。ペアリングされると、自動的に、プロジェクターが直ちにデバイスと接続されます。

注意


 両者を接続するときは、Bluetooth デバイスとプロジェクターの距離が 10 m (33 フィート) 以上離れていないことを確認してください。

規定の通信距離内で接続していても、電波の状況により接続が途切れる場合があります。





- 1 プロジェクターの電源が入っていることを確認してください。
- 2 Bluetooth スピーカーまたはヘッドフォンの電源を入れ、ペアリングモードになっていることを確認します。必要に応じて、デバイスのペアリングボタンを押します。詳細については、機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- 3 プロジェクターで  ボタンのどちらか一方を押して、プロジェクターとデバイスをペアリングします。
 - このボタンを押すと、プロジェクターはペアリングモードになり、画面に「検索中」と表示されます。また、電源表示 LED が水色で点滅します。

- ペアリングが完了すると、プロジェクターの画面に「ペアリング成功」の文字と、ペアリングされたデバイスの名前が短時間表示されます。また、電源表示 LED が水色で点灯します。
- ペアリングが成功しない場合、プロジェクターは、10 秒後に自動的にペアリングモードを終了します。

- 4 2 台目の Bluetooth スピーカーまたはヘッドフォンのセットをペアリングするには、上記のステップ 2 と 3 を繰り返しますが、ステップ 3 でもう一方の  ボタンを押します。

ヒント:

- Bluetooth デバイスに接続した後、プロジェクターのオーディオ出力は、自動的に Bluetooth 出力に切り替わります。
- Bluetooth デバイスを接続したら、リモコンで  /  を押して、お好みの音量に調整してください。接続されている各デバイスの音量を個別に制御するには、そのデバイスの音量コントロールを使用します。

Bluetooth デバイスを切断する

次のいずれかの方法で Bluetooth デバイスをプロジェクターから切断しますが、ペアリングしたままにしてください。

Bluetooth デバイスが接続されていない場合、プロジェクターのオーディオ出力は、自動的に内蔵スピーカーに切り替わります。


- Bluetooth デバイスから Bluetooth 接続を切断するか、Bluetooth デバイスの電源を切ってください。プロジェクターの画面に、短時間「接続解除」と表示されます。
- プロジェクターの電源を切ります。

Bluetooth デバイスを再接続する

上のステップを使用して Bluetooth デバイスをプロジェクターにペアリングして接続すると、Bluetooth デバイスがペアリング解除またはオフにならない限り、プロジェクターは自動的に再接続されます。再接続後、プロジェクターの画面に、短時間、「ペアリング成功」と表示されます。

Bluetooth デバイスのペアリングを解除する


この操作で、プロジェクターのメモリから Bluetooth デバイスが削除されます。このデバイスを再度使用するには、ペアリングして再接続する必要があります。

Bluetooth デバイスのペアリングを解除するには、デバイスが接続されている間に、プロジェクターの対応する  ボタンを 3 秒間長押しします。ペアリングが解除されると、プロジェクターの画面に、短時間、「接続解除」と表示されます。

6 メディアの再生

本プロジェクターにはメディアプレーヤーが内蔵されています。このメディアプレーヤーを使用すると、プロジェクターの内部メモリまたは USB ストレージデバイスに保存されているビデオファイルやオーディオファイルにアクセスして、再生できます。

注意

 本プロジェクターは、FAT16 または FAT32 ファイルシステムでフォーマットされた USB ストレージデバイスに対応します。

対応するメディアファイルフォーマット

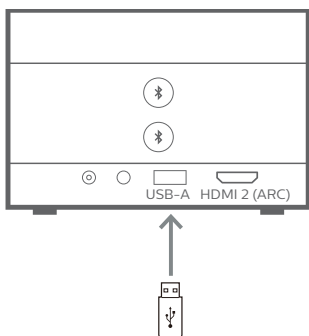
MKV、MP4、AVI、MOV、Ogg、FLAC、TS、M2TS、WAV、AAC、MP3 など、ほとんどのビデオおよびオーディオフォーマットに対応します。


メディアプレーヤーのユーザーインターフェイスをナビゲートする方法

- ・ リモコンのみを使用します。
- ・ 画面上で項目の間を移動するには、ナビゲーションボタン（上、下、左、右）を押します。
- ・ **OK** ボタンを押すと、選択した項目を確認したり開くことができます。
- ・ **⏮** を押すと、前の画面に戻ったり、現在の画面を終了します。

USB ストレージデバイスからビデオを再生する

- 1 USB ストレージデバイスを、プロジェクターの **USB-A** ポートに接続します。

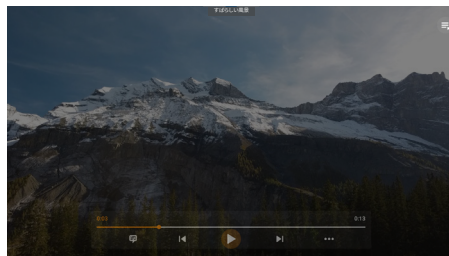


- 2 リモコンで  を押してプロジェクターのホーム画面に移動し、**メディアプレーヤー**を選択します。



- 3 左側のナビゲーションペインから**参照**を選択し、**内部メモリ**フォルダの右側にある USB ストレージデバイスのフォルダを選択して開きます。
- 4 メディアファイルを選択します。**注意**:再生可能なメディアファイルのみが画面に表示されます。フォルダとファイルは、すべて、名前のアルファベット順に並んでいます。
- 5 **OK** ボタンを押して、選択したメディア ファイルの再生を開始します。
- 6 再生中に **OK** ボタン を押すと、再生が一時停止し、画面下部にコントロールバーが表示されます。**OK** ボタンをもう一度押すと、再生が再開され、コントロールバーが非表示になります。**◀/▶** を押すと、10 秒前または 10 秒後に移動します。音量を調節するには、**🔊/🔊** を押します。

再生中に **▼** を押すと、画面下部に、一時的にコントロールバーが表示されます。**▲** を押して、画面の右側にその他のオプションメニューを表示することもできます。コントロールバーまたはその他のオプションメニューを直ちに非表示にするには、**⏮** を押します。



コントロールバーが表示されている間に、ナビゲーションボタンを押してオプションを選択し、**OK** ボタンを押してオプションを確認するか、値を変更します。オプションのダイアログボックスを閉じるには、**⏮** を押します。


- 7 再生を停止して現在のフォルダ内のファイルのリストに戻るには、**⏮** を押します。

7 プロジェクターを Bluetooth スピーカーとして使用する

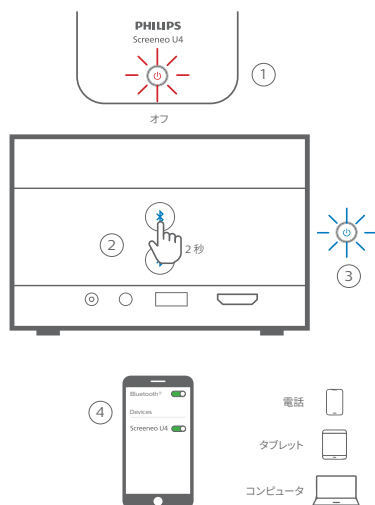
プロジェクターを Bluetooth スピーカーとして使用すると、スマートフォン、タブレット、コンピューターなどの Bluetooth 再生デバイスから音声を出力することができます。



初めて Bluetooth 再生デバイスと一緒にプロジェクターを使用する前に、それとプロジェクターをペアリングする必要があります。ペアリングされると、自動的に、プロジェクターが直ちにデバイスと接続されます。

注意

 両者を接続するときは、Bluetooth デバイスとプロジェクターの距離が 10 m (33 フィート) 以上離れていないことを確認してください。

規定の通信距離内で接続していても、電波の状況により接続が途切れる場合があります。



- 1 プロジェクターの電源を切り、電源表示 LED が赤で点灯していることを確認します。
- 2 プロジェクターで  ボタンの一方を 2 秒間長押しして、プロジェクターをペアリングモードにします。プロジェクターの電源 LED が青く点滅します。
 - ・ プロジェクターをスタンバイモードに戻すには、 ボタンの一方を 2 秒間長押しします。
- 3 Bluetooth 再生デバイスで Bluetooth 機能をオンにし、使用可能な Bluetooth デバイスのリストから「Screeneo U4」を選択して、ペアリングを開始します。詳細については、機器に付属の取扱説明書を参照してください。

- ・ ペアリングが完了すると、プロジェクターは Bluetooth スピーカーモードになり、電源 LED が青く点灯します。
- ・ ペアリングが成功しない場合、10 分後に自動的にプロジェクターの電源が切れます。

ヒント:

- ・ 再生デバイスとリモコンの両方で、再生の音量を制御できます。
- ・ プロジェクターが Bluetooth スピーカーモードになっている場合、通常の方法で電源を入れることができます。


Bluetooth デバイスを切断する

次のいずれかの方法で Bluetooth デバイスをプロジェクターから切断しますが、ペアリングしたままにしてください。

最初の 2 つの方法を使用して接続を解除すると、プロジェクターに「接続解除」と表示され、ペアリングモードに戻ります。

- 1 Bluetooth デバイスでプロジェクターの接続を解除します。
- 2 Bluetooth デバイスの Bluetooth 機能をオフにします。
- 3 プロジェクターの Bluetooth スピーカーモードを終了します。

Bluetooth スピーカーモードを終了する

Bluetooth スピーカーモードを終了するには、 ボタンの一方を 2 秒間長押しします。プロジェクターに「電源オフ」と表示され、スタンバイモードに戻ります。

Bluetooth デバイスを再接続する

上記のステップに沿って Bluetooth デバイスをプロジェクターにペアリングして接続すると、Bluetooth デバイスがペアリング解除またはオフにならない限り、もしくは Bluetooth デバイスでプロジェクターの接続が手動で解除されない限り、プロジェクターは自動的に再接続されます。

最後に接続されたデバイスからメモリ内のデバイスへの再接続を試みる場合、プロジェクターの電源 LED が青く点滅します。最後に接続されたデバイスが使用できない場合は、最後から 2 番目に接続されたデバイスとの再接続を試みます。

再接続後、プロジェクターに「接続済み」と表示されます。

Bluetooth デバイスのペアリングを解除する

この操作で、プロジェクターのメモリから Bluetooth デバイスが削除されます。このデバイスを再度使用するには、ペアリングして再接続する必要があります。

Bluetooth デバイスのペアリングを解除するには、デバイスが接続されている間に、プロジェクターで **✖** ボタンの一方を 5 秒間長押しします。プロジェクターは「接続解除」と表示され、ペアリングの解除後にペアリングモードに戻ります。

他の Bluetooth 再生デバイスをペアリングする

プロジェクターを他の Bluetooth 再生デバイスとペアリングするには、現在接続されている Bluetooth 再生デバイスの接続を解除し、本セクションの最初にあるステップ 1～3 を繰り返します。






注意: プロジェクターは 2 台以上の Bluetooth 再生デバイスとペアリングできますが、一度に 1 台のペアリング済みデバイスからしかオーディオを出力できません。

8 設定を変更する



- 1 リモコンで **⚙** を押して、プロジェクターの設定メニューに移動します。
- 2 ナビゲーションボタンと **OK** ボタンを使用して、メニュー項目を選択します。
- 3 **▲** / **▼** または **◀** / **▶** を押して、メニュー項目の値を選択します。
- 4 **OK** ボタンを押して変更します。**注意:** デジタルズームなどのメニュー項目では、別の値を選択すると変更が有効になります。
- 5 **つ** を 1 回以上押して、プロジェクターの設定メニューを終了します。

一般設定

次の一般設定が表示および変更できます。






	入力ソース	HDMI 1
	輝度モード	プレゼンテーション
	音声出力	内部スピーカー
	CEC	オン
	スリープタイマー	無効
	UHD ビデオ	オフ

- ・ 入力ソース: プロジェクターの入力ソースを選択します。
 - ・ 自動: 自動的に正しい入力ソースに切り替わります。これはデフォルト値です。
 - ・ HDMI 1: お使いのデバイスがプロジェクターの **HDMI 1** ポートに接続されている場合は、これを選択してください。
 - ・ HDMI 2: お使いのデバイスがプロジェクターの **HDMI 2** (ARC) ポートに接続されている場合は、これを選択してください。
- ・ 輝度モード: 輝度モードをプレゼンテーション通常、または夜間モードに設定します。**ヒント:** リモコンで **☀** Brightness を押すと、さらにすみやかに輝度モードを変更できます。

- 音声出力: プロジェクターの音声出力タイプを選択します。**ヒント:** リモコンで   を押すと、さらにすみやかに内部スピーカーと Bluetooth 出力を切り替えることができます。
 - 内部スピーカー: プロジェクターの内部スピーカーから音声を出力します。
 - Bluetooth 出力: 音声を出力するには、プロジェクターとペアリングされている Bluetooth デバイスを使用します。
 - ARC: HDMI™ ARC 対応デバイスを使用して音声を出力します。
- CEC: HDMI™ CEC (コンシューマー・エレクトロニクス・コントロール) をオンまたはオフにします。デフォルトはオンです。
- スリープタイマー: プロジェクターが自動的にオフになるまでの時間を選択します。デフォルトは無効です。
- UHD ビデオ: UHD ビデオモードをオンまたはオフにします。デフォルトはオフです。
- 画面オフ: プロジェクターの電源を切らずに、投影画面の電源を切ります。リモコンでいずれかのボタンを押すと、画面がオンに戻ります。
- 2D/3D: 入力信号の 3D フォーマットを選択します。
 - 2D: 入力信号が 2D フォーマットの場合に選択します。これはデフォルト値です。
 - 3D サイドバイサイド: 3D 入力信号がサイドバイサイドフォーマットの場合に選択します。
 - 3D トップ / ボトム: 3D 入力信号がトップ / ボトムフォーマットの場合に選択します。

画像設定







次の画像設定が表示および変更できます。


	形状補正	オフ
	投影方向	正面
	デジタルズーム	100%
	起動時のオートフォーカス	オフ
		

- 形状補正: オプションを選択してキーストーンを補正し、画像を長方形にします。デフォルトはオフです。**注意:** この設定を変更すると、デジタルズームの設定がリセットされます。
 - 自動: プロジェクターが自動的にキーストーンを補正します。
 - 手動: 画面のコーナーを調整して手動でキーストーンを補正します。
 - 垂直 / 水平補正: 垂直方向と水平方向の調整を行って、キーストーンを手動で補正します。
 - オフ: 自動キーストーン補正を無効にします。
- 投影方向: プロジェクターの設置方法に基づいて、正しい方向に投影を調整します。
- デジタルズーム: 投影画像を最大 50% 縮小します。デフォルトは 100% (縮小なし) です。**注意:** この設定を変更すると、形状補正が手動に設定されます。
- 起動時のオートフォーカス: これをオンにすると、起動時に、プロジェクターがフォーカスを自動的に調整します。デフォルトはオフです。

色と音声の設定







次の色と音声の設定が表示および変更できます。

	画像プリセット	標準
	HDR 輝度	400
	サウンドプリセット	映画
	色温度	標準
	2D/3D	2D
		

- 画像プリセット: 画像およびビデオ表示に定義済みの色の明るさ設定を選択するか、ユーザーを選択して、明るさ、コントラスト、彩度、色相、シャープネスの値をカスタマイズします。**ヒント:** リモコンで  Presets を押すと、さらにすみやかに画像プリセットを変更できます。
- HDR 輝度: 高ダイナミックレンジ (HDR) の輝度を設定します。
- サウンドプリセット: サウンドエフェクトを音楽または映画に設定します。
- 色温度: 赤などの暖色を強調するにはウォームを選択します。コールドを選択すると青みがかった画像になります。適度な色温度にするには標準を選択します。赤、緑、青の値をカスタマイズするには、ユーザーを選択します。

その他の設定

次の追加設定が表示および変更できます。

	言語	日本語
	メニュー位置	中央
	画像キャリブレーション	
	ファームウェアアップグレード	
	工場出荷時リセット	
	ソフトウェアバージョン	1.5.8

- ・ 言語: プロジェクターの表示言語を選択します。
- ・ メニュー位置: 設定メニューの位置を左下、左上、中央、右下、右上に設定します。
- ・ 画像キャリブレーション: 画面の指示に従って画像を調整します。
 - ・ オートフォーカス: テキスト (指示) のブロックを表示し、画面上のボタンを使用して、画像フォーカスを調整します。
 - ・ 形状補正: 画面の指示に従って、画面上のボタンを使用して画像形状を調整します。
- ・ ファームウェアアップグレード: USB フラッシュドライブを使用して、プロジェクターのソフトウェアをアップデートします (USB によるソフトウェアのアップデート、18 ページを参照)。
- ・ 工場出荷時リセット: 製品を工場出荷時のデフォルト設定に戻します。工場出荷時の設定にリセットすると、プロジェクターが再起動し、新規に設定できるようになります。
- ・ ソフトウェアバージョン: 本製品のソフトウェアバージョンを確認します。
- ・ シリアル番号: 本製品のシリアル番号を確認します。

9 メンテナンス

清掃

危険!



プロジェクターを清掃するときは、次の指示に従ってください:

糸くずの出来ない柔らかい布を使用してください。液体または引火しやすいクリーナー (スプレー、研磨剤、つや出し剤、アルコール) は絶対に使用しないでください。プロジェクターの内部に湿気が入らないようにしてください。プロジェクターに洗浄液をスプレーしないでください。

表面をやさしく拭いてください。表面を傷つけないように注意してください。

レンズの清掃

プロジェクターのレンズの清掃には、柔らかいブラシかレンズクリーニングペーパーを使用してください。

危険!










洗浄液は使用しないでください!

レンズのコーティング膜を破損させないために、レンズの清掃には洗浄液を使用しないでください。

ソフトウェアのアップデート

プロジェクターで最高の機能とサポートを実現するプロジェクター用最新ソフトウェアは、www.philips.com/support で確認いただけます。プロジェクターのソフトウェアをアップデートする前に、現在のソフトウェアバージョンを確認してください。

- ・ リモコンで  を押して、ソフトウェアバージョンに移動します。


	メニュー位置	中央
	画像キャリブレーション	
	ファームウェアアップグレード	
	工場出荷時リセット	
	ソフトウェアバージョン	1.5.8
	シリアル番号	000001

注意!



ソフトウェアのアップデート中は、プロジェクターの電源を切ったり、USB フラッシュドライブを取り外さないでください。

USBによるソフトウェアのアップデート

- 1 www.philips.com/support にアクセスして、お使いの製品 (モデル番号: **SCN350/INT**) を見つけ、そのサポートページを開き、「**ソフトウェアとドライバー**」を見つけます。
- 2 アップデートパッケージをダウンロードし、必要に応じて解凍します。「**SCN350INT_firmware.zip**」という名前のアップデートファイルを取得する必要があります。このファイルを、USB フラッシュドライブのルートディレクトリにコピーします。
注意: このファイルは解凍しないでください。
- 3 プロジェクターの電源がオフになっている場合は、オンにします。
- 4 プロジェクターに USB フラッシュドライブを接続します。
- 5 リモコンで  を押して設定メニューにアクセスし、ファームウェアアップグレードに移動して **OK** ボタンを押します。プロジェクターがアップデートファイルを検索します。ファイルが見つかった場合は、**アップデートを開始**ダイアログボックスが表示されます。
- 6 リモコンでいずれかのナビゲーションボタンを押して**アップデート**ボタンを選択し、**OK** ボタンを押します。
- 7 アップデートが完了するまで待ちます。アップデート後に、プロジェクターが再起動します。

10トラブルシューティング

パワーサイクル

問題が発生した場合、本取扱説明書の手順を使用しても問題を解決できない場合は、次の手順を試して問題を解決してください。

- 1 電源ボタンを2回押して、プロジェクターの電源を切ります。
- 2 10秒以上待ちます。
- 3 電源ボタンを2秒間長押しして、プロジェクターの電源を入れます。
- 4 問題が解決しない場合は、カスタマーサービスセンターまたは販売店にご連絡ください。

問題	解決策
プロジェクターの電源が入りません。	<ul style="list-style-type: none">・電源ケーブルを抜き差しし、プロジェクターの電源を入れ直してください。
プロジェクターの電源を切ることができません。	<ul style="list-style-type: none">・電源ボタンを10秒以上長押しします。これが失敗した場合は、電源ケーブルを抜いてください。
外部 HDMI™ デバイスから画像が表示されません。	<ol style="list-style-type: none">1. 正しい HDMI™ 入力を選択されているかどうかを確認します (HDMI 1 または HDMI 2)。2. HDMI™ ケーブルを外すか、HDMI™ デバイスの電源を切ります。3. 3秒間待ちます。4. HDMI™ ケーブルを再接続するか、HDMI™ デバイスのスイッチをもう一度オンにします。
外部接続デバイスから音が出ません。	<ul style="list-style-type: none">・外部デバイスへのケーブルを確認してください。・外部デバイスでサウンドが起動していることを確認してください。・デバイスメーカーのオリジナルケーブルのみで機能する場合があります。
外部 HDMI™ 出力デバイスから音が出ません。	<ul style="list-style-type: none">・HDMI™ 出力デバイスで、オーディオ設定をマルチチャンネル (生データ) & ステレオ (PCM) に設定します。
HDMI™ ケーブルを使用してコンピュータを接続すると音が出ません。	<ul style="list-style-type: none">・コンピュータで音声起動していることを確認します。
ホームメニューのみが表示され、外部デバイスからの画像が表示されません。	<ul style="list-style-type: none">・ケーブルが正しいソケットに接続されているかどうかを確認してください。・外部デバイスの電源が入っていることを確認してください。・外部デバイスのビデオ出力がオンになっているか確認してください。
ホームメニューのみが表示され、接続されたコンピュータからの画像が表示されません。	<ul style="list-style-type: none">・コンピュータの HDMI™ 出力がオンになっていることを確認してください。・コンピュータの解像度が 1920x1080 に設定されているかどうかを確認します。
プロジェクターの電源がひとりでに切れます。	<ul style="list-style-type: none">・プロジェクターを長時間使用すると、表面が高温になります。・電源ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

問題	解決策
プロジェクターが USB ストレージデバイスを読み取れません。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本プロジェクターは exFAT ファイルシステムをサポートしていません。 ・ USB ストレージデバイスは、FAT32 または NTFS 形式にフォーマットしてから使用してください。
プロジェクターがリモコンのコマンドに反応しません。	<ul style="list-style-type: none"> ・ リモコンの電池を確認してください。
プロジェクターの表面温度が高い。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本プロジェクターは、正常な動作中に多少発熱します。
ラップトップ PC に接続した後に、プロジェクターが動作しません。	<ul style="list-style-type: none"> ・ HDMI™ ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 ・ ラップトップ PC がプロジェクターディスプレイに切り替わっていることを確認します。
プロジェクターが Bluetooth デバイスとペアリングできません。	<ul style="list-style-type: none"> ・ Bluetooth デバイスの電源を入れ、ペアリングモードになっていることを確認します。 ・ プロジェクターからの距離が 10 m (33 フィート) 未満になるように Bluetooth デバイスを配置してください。 ・ プロジェクターに Bluetooth スピーカー / ヘッドフォンを接続する際は、プロジェクターがオンになっていることを確認します。 ・ プロジェクターに Bluetooth 再生デバイスを接続する際は、プロジェクターがオフ (スタンバイモード) であることを確認します。 ・ プロジェクターに別の Bluetooth デバイスが接続されている場合は、その接続を解除します。 ・ 無線周波数信号を発生する他のデバイス (電子レンジ、ワイヤレスルーターなど) からプロジェクターを遠ざけます。
Bluetooth デバイスを接続した後に、プロジェクターまたは Bluetooth デバイスから音が出ません。	<ul style="list-style-type: none"> ・ Bluetooth デバイスの音量が最小になっているかどうかを確認してください。 ・ プロジェクターの音量が最小になっているか確認してください。 ・ 再生が開始されたかどうかを確認してください。 ・ 別のビデオ / オーディオファイルを再生してみてください。 ・ 2 台のデバイスを再接続してみてください。
画面に黒い点 (ピクセル抜け) が出ます。	<p>Texas Instruments の DMD ディスプレイには通常、正常に機能しない少数のピクセルが含まれています。ディスプレイは検査済みで、製造元の仕様に準拠しています。すなわち、ピクセル抜けがディスプレイの操作や使用に影響を与えることはありません。上記の一般性を損なうことなく、ピクセル抜けが 7 個以下のディスプレイは工場仕様を満たしており、この保証では欠陥とは見なされません。</p>

11 付録

技術データ

技術 / 光学

ディスプレイテクノロジー	TI DLP
光源	LED RGGB 4 チャンネル
色度測定とメタデータ	REC.709
解像度	1920x1080 ピクセル
LED の寿命	30,000 時間以上
コントラスト比	370:1
アスペクト比	16:9
スローレシオ	0.25:1
画面サイズ (対角)	32 インチ ~ 80 インチ
画面距離	4cm ~ 30.5cm / 2 インチ ~ 12 インチ
レンズ保護	あり
投影モード	4
フォーカス調整	自動または手動
キーストーン補正	自動または手動
TOF	あり、自動 4 隅調整用
4 隅補正	あり
デジタルズーム	あり (50 ~ 100%)
内蔵メディアプレーヤー	あり

音声

内蔵スピーカー	15 W x 2
サラウンドモード	あり
イコライゼーション	あり

接続

HDMI™ 入力	x2
USB-A (1.5 A 出力 + 外部ドライブ)	x1
3.5 mm オーディオ出力	x1
Bluetooth	デュアル Bluetooth 5.0

電源

消費電力	動作状態: 90 W
	スタンバイ状態: 0.3 W
電源アダプター	
..... 入力: AC 100 ~ 240V、50/60Hz、1.5A (最大)	
..... 出力: DC 20.0V、4.5A、90.0W	

内蔵メディアプレーヤー

内蔵 VLC プレーヤーを介して数千のコーデックをサポート

寸法と重量

開梱時 (幅 x 奥行 x 高さ)	223.5 x 123.5 x 81.5 mm
梱包時 (幅 x 奥行 x 高さ)	267.5 x 187 x 148 mm
重量	1.74kg / 3.84 ポンド

温度条件

動作温度	5°C ~ 35°C
保管温度	60°C 未満

同梱品

1. Screeneo U4 プロジェクター
2. リモコン
3. HDMI™ - HDMI™ ケーブル
4. 電源アダプター
5. 電源ケーブル (EU、英国、米国)
6. リモコン用単 4 電池
7. クイックスタートガイドと保証書

モデル

SCN350/INT
EAN: 7640186960953
UPC: 781159575358

CE 宣言文

- ・ 本製品は、バージョン USB 2.0 以降の USB インターフェイスにのみ接続してください。
- ・ アダプターを機器の近くに設置し、簡単に抜き差しできるようにしてください。
- ・ EUT の動作温度は 35℃を超えてはならず、5℃を下回ってはなりません。
- ・ プラグは、アダプターの切断装置と見なされます。
- ・ UNII 周波数帯 5150 ～ 5250 MHz は屋内専用です。
- ・ デバイスを身体から 20 cm 離して使用すると、高周波仕様に準拠します。

Screeneo Innovation SA では、本製品が指令 2014/53/EU の主要要件およびその他の関連条項に準拠していることを宣言します。



準拠宣言は、サイト www.philips.com でご覧になれます。

周波数帯	最大出力電力
BT EDR (EIRP)	9.09 dBm
BT BLE (EIRP)	4.85 dBm
Wi-Fi 2.4GHz (EIRP)	17.88 dBm
Wi-Fi 5GHz (EIRP)	17.89 dBm

連邦通信委員会規則宣言

15.19 表示要件。

本装置は連邦通信委員会規則第 15 条に準拠しています。本装置は、以下の 2 条件を理解した上で操作してください：(1) 本装置は有害な妨害を発生する恐れはありません。(2) 本装置の使用中に、その動作に影響を及ぼすような妨害を受ける恐れがあります。

15.21 使用者への情報。

本装置に、上記条項の遵守責務を有する団体が許可していない変更や改造を加えた場合、使用者は、本装置を使用する権利を失うことがあります。

15.105 使用者への情報。

本装置は連邦通信委員会規則第 15 条の基準に基づくクラス B デジタル機器です。この制限事項は、住宅内に設置された場合に、有害な妨害から適切に保護するために設けられたものです。本装置は無線周波数を発生・使用・放射するため、指示通りに取扱いおよび使用されない場合は、無線通信に有害な妨害を招く恐れがあります。ただし、特定の取付法によって妨害が生じないという保証はありません。本装置がラジオやテレビ受信機に対して有害な混信を招き、本装置の電源の入切を行なうことによって本装置が原因であると確認できた場合、次の 1 つまたはそれ以上の措置に従って混信を正すようにしてください。

- ・ 受信アンテナの方向を調整する、または位置を変える。
- ・ 機器と受信機との距離を広げる。
- ・ 本装置を、受信機が接続されているものと異なる電源に接続する。
- ・ 販売店または経験豊富なラジオ / テレビ技術者に相談する。

操作中は、使用者とアンテナ間の距離を 20 cm 以上離す必要があります。この距離を保つことで、適切に設置された外部取付アンテナから十分な距離が確保され、高周波曝露要件を満たすことができます。

FCC ID: 2ASRT-SCN350

カナダ法規制の順守

本装置はカナダ産業省 CAN ICES-3 (B)/NMB-3(B) に準拠しています。

RSS-Gen & RSS-247 宣言: 本装置はカナダ産業省 RSS 基準に準拠しています。

本装置は、以下の 2 条件を理解した上で操作してください：

- 1 本装置が有害な妨害を発生させないこと。
- 2 本装置は、その動作に影響を及ぼすような妨害を受ける恐れがあることを留意の上で使用するのこと。

電磁波曝露に関する声明: 本装置は、カナダ適合規制 RSS102 第 2.5 条の評価限度が免除されており、本装置の使用者には、高周波曝露およびその遵守に関するカナダ適合規制の情報が提供されます。

本装置を取り付け、本装置と身体との間を 7.8 インチ (20 センチメートル) 以上離して操作してください。

その他の通知

持続可能な開発計画の一環として、環境保護は、Screeneo Innovation SA の重要な関心事です。Screeneo Innovation SA では、環境に配慮したシステムを運用することを望んでおり、その結果、製造から試運転や廃棄に至るまで、これらの製品のライフサイクルに環境パフォーマンスを統合することを決定しました。

電池: 電池が含まれている製品は、適切な回収場所での廃棄する必要があります。



製品: 製品に記載された、×印の付いたごみ箱の記号は、本製品が電気・電子機器の区分に属していることを意味しますこのため欧州規制では使用後の製品を、以下の場所でのみ廃棄するよう求めています：

- ・ 同様の機器を購入した販売店。
- ・ 現地で利用できる回収ポイント (ドロップオフセンター、選択的回収場所など)。

これを実行することによって、環境と人間の健康に影響を与える可能性のある電気および電子機器廃棄物の再利用とアップグレードに関与できます。

使用している紙やダンボールの梱包材は、再生紙として廃棄できます。お住まいの国の要件に応じて、プラスチック包装をリサイクルするか、リサイクル不可の廃棄物として廃棄してください。

商標: 本書で言及されている商標は、各企業の商標です。商標企業® および™ が記載されていない場合でも、こうした用語が無料で使用できるとは限りません。本書に記載のその他の製品名は、識別の目的で使用されており、他の所有者が所有する商標である場合があります。Screeneo Innovation SA では、こうしたマークに関するすべての権利を否認します。

Screeneo Innovation SA およびその関連会社では、本製品の改造・修理・改変、もしくは Screeneo Innovation SA の操作および保守の指示に厳密に従わなかった場合に、本製品の購入者または第三者に対して、本製品の事故、誤用、乱用、もしくは無許可の使用の結果として購入者または第三者が被った損害・損失・費用・経費について、一切責任を負いません。

Screeneo Innovation SA は、オリジナルの Screeneo Innovation SA/PHILIPS 製品または Screeneo Innovation SA/PHILIPS 認定製品とし

て指定されていないオプション品や消耗品の使用に起因する損害や問題について、一切責任を負いません。

Screeneo Innovation SA では、Screeneo Innovation SA/PHILIPS 製品として指定されていないインターフェースケーブルの使用によって生ずる電磁干渉に起因するいかなる損害についても責任を負いません。

無断複写・転載を禁じます。本書のいかなる部分も、Screeneo Innovation SA の事前の書面による許可なしに、電子的・機械的・写真複写・録音等のいかなる形式または手段によっても、複製、検索システムへの保存、または送信を行うことはできません。本書に記載の情報は、本製品にのみ適用されます。Screeneo Innovation SA では、本情報が他の機器に適用されるか否かの判断に関して一切責任を負いません。

本取扱説明書は契約書ではありません。

記載内容の誤謬、印刷エラー、変更に関して責任を負いません。

HDMI™
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、HDMI Trade Dress の各用語および HDMI ロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。



Screeneo Innovation SA

Route de Lully 5c - 1131 Tolochenaz - Switzerland

Philips and the Philips Shield Emblem are registered trademarks of Koninklijke Philips N.V. and are used under license. Screeneo Innovation SA is the warrantor in relation to the product with which this booklet was packaged.